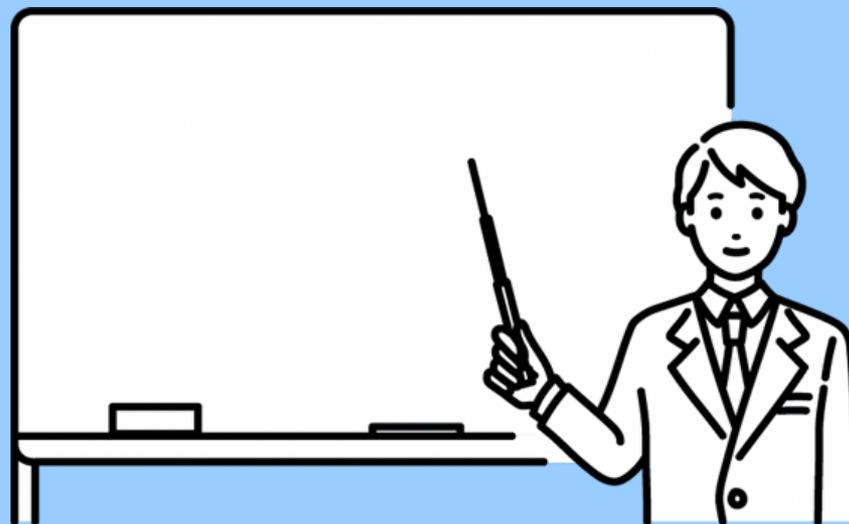


# 武蔵村山市の公共交通の将来像

～公共交通利用圏から見える公共交通網の再編～



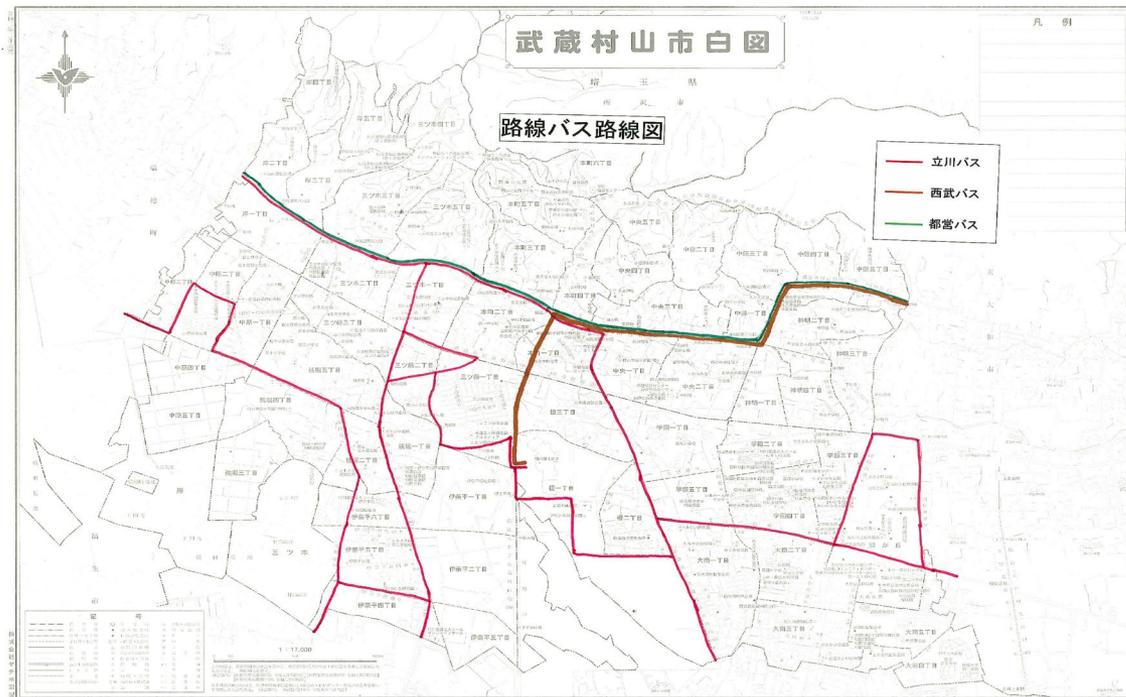
武蔵村山市都市計画課

# 1.市の公共交通網の現況①

武蔵村山市の公共交通は①路線バス及び②コミュニティバスとなっています。

①路線バスの路線図は下の図のとおりです。

市北部の東西を結ぶ路線として都営バスと西武バスが乗り入れており、市中央部には、市内から J R 立川駅を結ぶ路線として、市西部には、市内から西武拝島線西武立川駅を経由して J R 昭島駅までを結ぶ路線として、それぞれ立川バスが乗り入れております。







# 4.公共交通網の利用状況から見えること

武蔵村山市の公共交通を利用する人の割合を可視化してみると、市の北部及び東部が利用率が高いことが分かります。これは、現行の路線バスのネットワークによるもので、駅のない当市では、市東部の地域が最寄りの駅まで路線バスを利用していることが見えてきます。また、市西部は、公共交通の利用より、最寄りの駅まで自転車・自家用車を利用する割合が高いことが見えてきます。

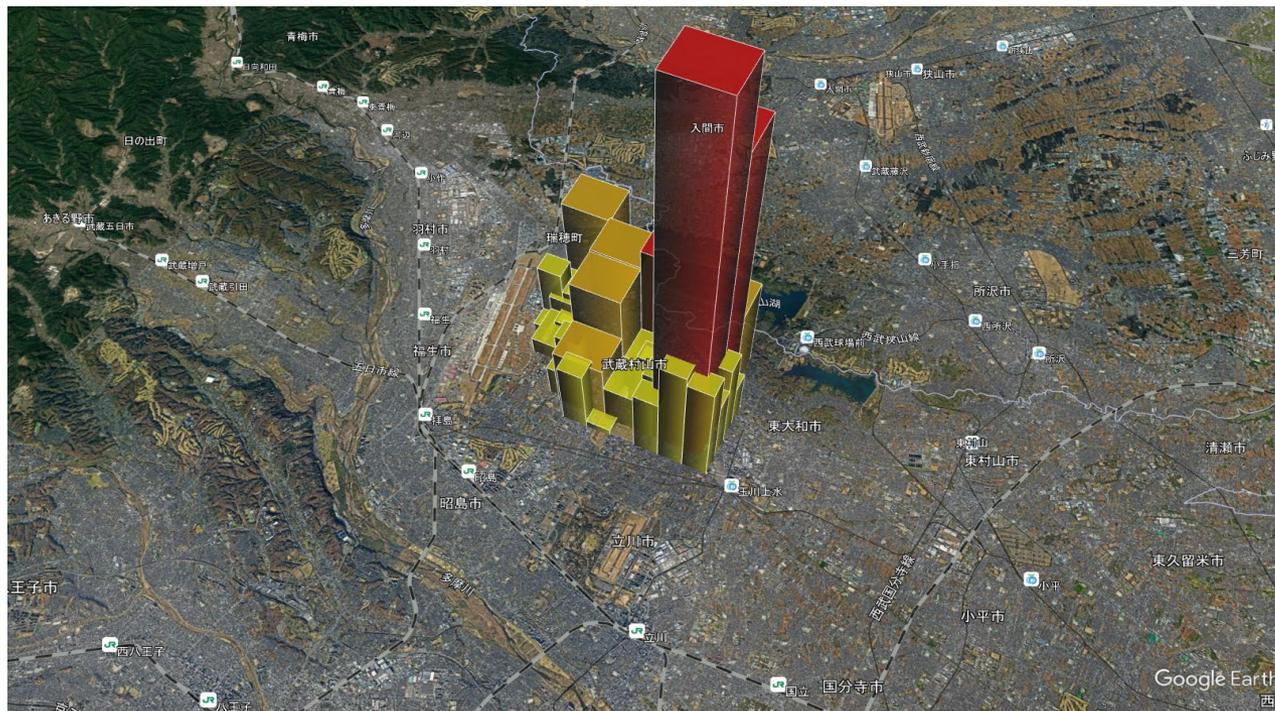


図1 武蔵村山市の通勤・通学に公共交通を利用する人の割合

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

# 5.市民の公共交通に対する意識の検証

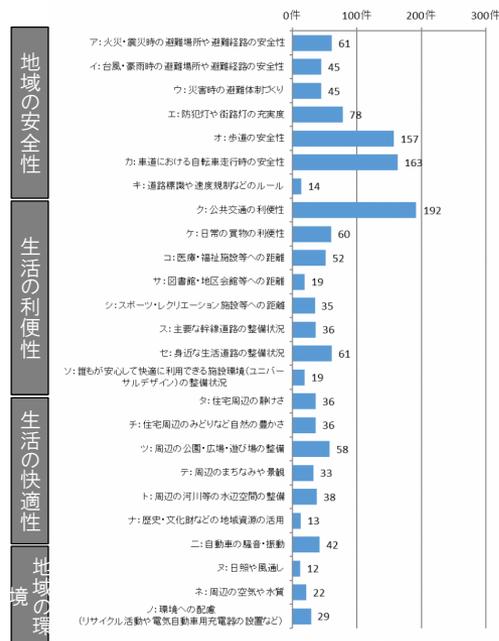
武蔵村山市は鉄道駅がなく、他市町村へ通勤・通学する市民は最寄りの鉄道駅まで路線バス、自転車又は自家用車で移動しています。市内を移動する市民は、コミュニティバスまたは自転車、自家用車で移動しています。鉄道がないため、路線バス、コミュニティバスともに、市民の足としてなくてはならないものとなっています。武蔵村山市まちづくり基本方針策定時に行った市民アンケートでは、今後のまちづくりについて、地域のまちづくりにおいて重要な項目として「公共交通の利便性」を挙げている回答者数が多くみられます。このことから市民の公共交通に対する意識は高いと思われます。

## 武蔵村山市まちづくり基本方針市民アンケート

### お住まいの地域における今後のまちづくりについて

問9 地域のまちづくりにおいて重要な項目

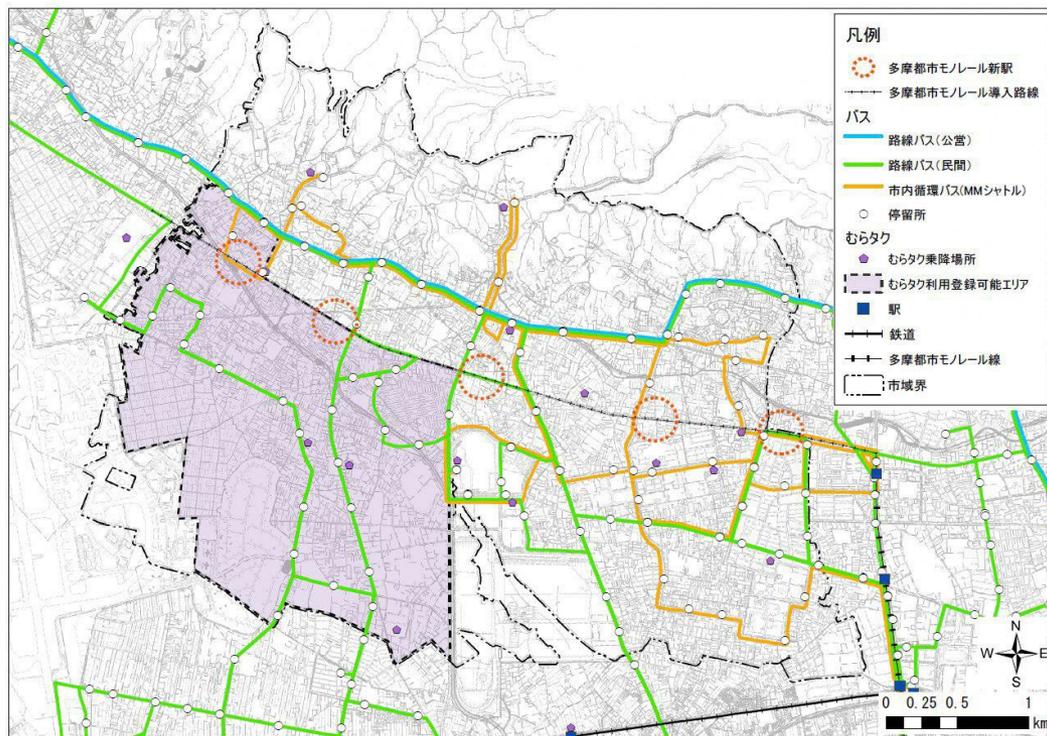
- 第1位 (ク) 公共交通の利便性
- 第2位 (カ) 車道における自転車走行時の安全性
- 第3位 (オ) 歩道の安全性



# 6.市の公共交通の将来像

多摩都市モノレールの上北台駅～箱根ヶ崎駅間の延伸により市内中央部を東西にモノレールが乗り入れることになり、市内に5つの駅が予定されています。今後、地域公共交通計画の策定において、モノレールと地域公共交通のあり方を検討するに当たり、既存のバス路線を生かしながら、どのようにモノレール駅への乗り入れるのかが課題となっています。

＜多摩都市モノレールの延伸計画図とバスルート＞



出展：武蔵村山市まちづくり基本方針

武蔵村山市は、東京都のほぼ中央北部に位置し、立川市、東大和市、福生市、瑞穂町及び埼玉県所沢市に隣接し、市域は、南北に約4.6km、東西に約5.2km、面積は約15.32km<sup>2</sup>、人口約72,000人の小規模な都市です。

昭和45年の市制施行以来、市東部には都内でも最大級のマンモス団地である都営村山団地があり、市北部には狭山丘陵が広がり、東京のベッドタウンとして中・低層住宅地が広がるみどり豊かな都市として発展してきました。

市北部に広がる狭山丘陵は、野山北・六道山公園、中藤公園などの都立公園として開園されており、休日には市内外から多くのかたが訪れ、憩いの場となっています。また、市のほぼ中央部に大型ショッピングモールがあり、市内外からの買い物客でにぎわっています。

都内でも唯一鉄道のない都市として、従来から交通の不便なまちとして知られ、通勤・通学も最寄りの駅まで自転車や公共交通を利用しているのが現状となっています。

今後、多摩都市モノレールが東大和市の上北台駅から瑞穂町の箱根ヶ崎駅まで延伸することが具体化され、モノレール駅を中心としたまちづくりの推進と公共交通網の整備が課題となっています。

### <武蔵村山市の位置>

